

# 体育授業における教師と子どもの学びの実態解明と

## 変容に関する実践的研究

～ライフヒストリーに基づく自己省察と協働省察より～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

光本 允

本研究は、体育授業における教師と子どもの学びの実態解明と変容に関して、教師の省察の構造を明らかにするとともに、児童の学びの変容過程を提示することを目的とし、自己エスノグラフィーとアクションリサーチを援用して実践と分析を行った。

分析では、フォーマルな「協働ビデオ省察会」と写真等を用いた「インフォーマル協働省察」の発話構造を、定性的・定量的な視点を含む三軸コード体系により比較した。その結果、場の非公式性が教師の対話を「技術的関心」から「内容論的な信念」へと深化させ、指導観の変容を促すことが明らかになった。

さらに、体育授業における教師の「環境の設定者」への役割変容が、従来の技能習得に留まらない、児童による主体的な技能獲得や社会的価値の発見を支えることになるという連鎖的メカニズムを解明した。

本研究は、ライフヒストリーに基づく自己省察と協働省察により体育科の学習価値の拡張可能性を実証的に提示し、教師教育における自律的な学びの促進に向けた理論的・実践的な示唆を与えるものである。